

新幹線を支える
47チ 銅合金インコット

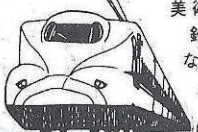
高品質を追求する**47チ**の銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 **イ7チ**

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246代表
FAX 6460-2355

青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種

N700系
のぞみ
(時速300km)



日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半カ年44,100円(前納) 3カ月22,050円

63S・D粉
銅・真鍮粉

(株) アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市浪川町2-9-27
本社 (06) 4307-0600

三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルビセンター (0595) 45-6510

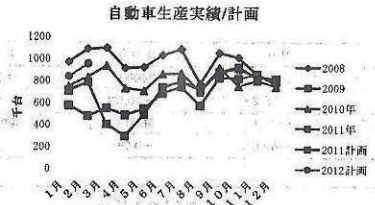
◆自動車生産台数

	9月	10月	11月
生産台数	88万3692台	90万4247台	83万8135台
前月比	+25.4%	+2.3%	-7.3%
昨年対比	-4.6%	+20.3%	+4.6%

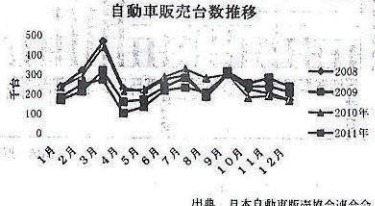
◆自動車販売台数

	10月	11月	12月
販売台数	24万7927台	25万2226台	22万1990台
前月比	-21%	+1.7%	-12%
昨年対比	+22.9%	+24.1%	+23.5%

自動車生産台数推移



自動車販売台数推移



報道、独メルケル首相が欧州債務問題について早期解決策はないなどのマイナス発言を受けて暴落、結果七、三五〇ドル(セツル)と約五五〇ドル暴落しての前半締めとなった。後半は北朝鮮の金総書記死亡による朝鮮半島情勢不安や、米格付け会社S&Pがスペイン、イタリアを含む欧州六国の長期国債の見直しを行うなどのマイナス要因はあったものの、独IFO企業景況感指数の好調やECB初の資金供給オペの額が市場予測を大きく上回る四、九〇〇億ユーロだったこと、十二月の中国銅輸入が堅調だったこと、さらに米ゴールドマンサックスが二〇一二年の銅価格の見通しについて強気だったことから一月十一日現在、七、六四一ドル(セツル)前半締めから二五〇ドル強上昇、建値六二万円のスタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比七・三%減の八三万八、一三五台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比二・二%減の二二万九、九六〇台(前年比二二・五%増)。

◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比一六・七%増の二六二万四千台。(面へ続く)



橋本健一郎氏

橋本健一郎氏リポート①

【概況】十二月前半は日米欧の中央銀行によるドル協調供給拡大や米ADP雇用レポート、シカゴPIM I指数の好調、さらに三年ぶりとなる中国預金準備率の引き下げを好感し七、九〇〇ドル近辺まで上昇するも、期待の欧州会合の結果を受けて米格付け会社S&Pやフィッチが一五カ国の格下げ検討との

スクラップ輸出が大幅増加 輸入は電気銅が再び急増

銅相場ハ、一〇〇〇ルを目指す展開も

国内は自動車以外は概して調整続くか

(二面より続く)

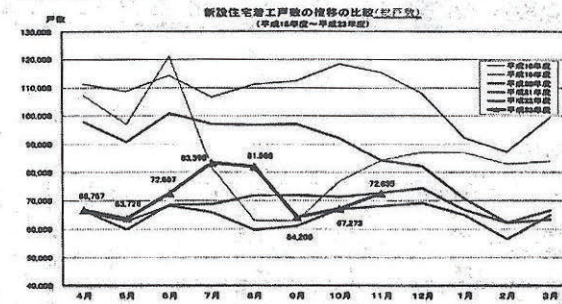
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)九・一%増(昨年比〇・三%減)の七万二、六三五戸であった。

◆新設住宅着工戸数

	9月	10月	11月
新設住宅着工戸数	6万4206戸	6万7273戸	7万2635戸
季節調整 前月比	-20.2%	+3.9%	+9.1%
昨年対比	-10.8%	-5.8%	-0.3%

新設住宅着工件数推移

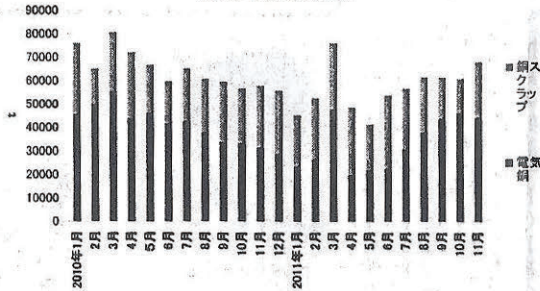


出典 国土交通省 統計

◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が四%減の四万四、五三二t、スクラップが五八・一%増の二万三、三八四t。

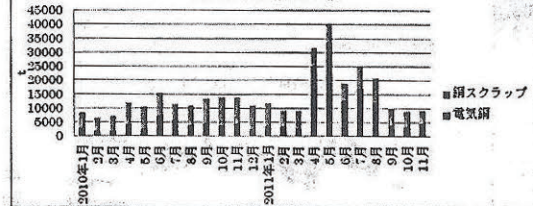
輸出	9月	10月	11月
電気銅	4万3816t	4万6384t	4万4532t
前月比	+15%	+6.9%	-4%
スクラップ	1万7875t	1万4786t	2万3384t
前月比	-24.6%	-17.3%	+58.1%
輸出推移			

10-11年銅輸出推移



輸入	9月	10月	11月
電気銅	3804t	3400t	4650t
前月比	-68.2%	-10.6%	+36.8%
スクラップ	6199t	5600t	4866t
前月比	-32.6%	-9.7%	-16.7%
輸入推移			

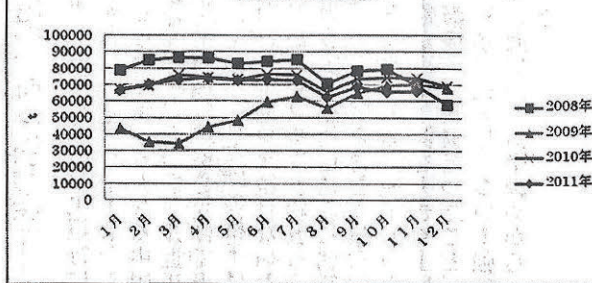
10-11年銅輸入推移



出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比〇・六%増の六万五、九四〇t(昨年対比〇・四%減)。

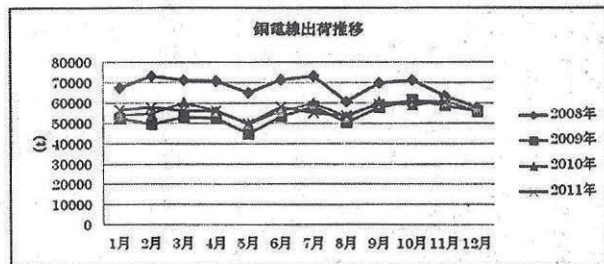
伸銅品生産推移



出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比〇・一%減の六万〇、四〇〇tであった(昨年対比〇・四%減)。(四面に続く)

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

【見通し】

今月も好調な自動車関連以外が生産、在庫調整が進んだ月となった。

自動車生産は前年比四・五%増の八三万八、一三五台と上昇、四カ月連続で震災前の水準に戻った。

また、国内自動車販売台数も二二万一、九六〇台で前年比二三・五%増と急回復、販売回復機運は堅調。

使用用途が多い伸銅品生産量は前月比〇・六%増の六万五、九四〇t、昨年対比一〇・四%減と六カ月連続の前年割れ。

銅電線出荷量は、前月比〇・一%減の六万〇、四〇〇t、昨年対比〇・四%減とほぼ横ばい。

新設住宅着工数は季節調整前月比九・一%増の七万二、六三五戸。前年比は〇・三%減と需要低迷も底入れか。

輸出に関しては前月までの緊急輸入の電気銅の荷余り感も一服、電気銅輸出が前月比四%減の四万四、五三二tと四カ月ぶり減少。

輸入も在庫調整が一服、電気銅は前月比三六・八%増の四、六五〇t。

銅需給に関しては、自動車関連には、本格的な需要を前提とした販売・計画が続いている。販売面でも自動車が前年比二四%増と大幅回復した。その他の関連は、前月に続き小幅調整している伸銅品、黄銅棒の生産は需要の悪化から引き続き調整がつづくであろう。緊急輸入がされていた電気銅は今月、前月比

三七%増と再び増加し調整が進んだとの見方もあり来月が注目。

銅価格に関しては、欧州債務問題は一喜一憂、今後も不透明感が続く、ただ前月に続き米経済が好調のようであり、また十一月、十二月の中国銅輸入の増加から中国筋の積み増しが予測でき、ファンダメンタルズは比較的堅調。新年度需要が期待される三月まではFRBの追加的金融緩和、中国の金融緩和などの実行への思惑からLME価格で七、五〇〇、八、一〇〇ドル。銅建値に関しては六二、六七万円程度と予測している。

ベージュ米経済緩やかな成長

初秋までの報告に比べ改善

米連邦準備制度理事会(FRB)が十一日発表した地区連銀景況報告(ベージュブック)によると、昨年十一月下旬から年末まで米経済は緩やかな成長を続けた。年末の休暇シーズンに向けた消費が活発で、「(全米一二地区連銀の)大半が晩春から初秋までの報告に比べ、経済情勢が好ましい」としている。欧州金融危機や住宅など不安は残るものの、今後、米景気が徐々に明るさを増してくる可能性もありそうだ。

報告によると、七地区で「成長は小幅」。それ以外五地区のうちニューヨーク、シカゴでは「成長ペースが加速」し、ダラス、サンフランシスコでは「穏やかな成長」。これに対し、リッチモンドの経済活動は「横ばいもしくはわずか」だった。

米景気のけん引役は消費者支出。大半の地区が「歳末の小売り売り上げが前年に比べ顕著に増加」としている。ボストン、ニューヨークなど三地区ではネット販売が好調。また、新車販売は大半の地区で拡大し、アトラクタではこの二年間で最高のペースを記録した。一方、カンザスシティでは軟化した。

旅行、観光も大半の地区で拡大。人材派遣など非金融サービスの需要は一段と強まった。また、製造業は鉄鋼や設備装置を中心に全般に拡大を継続した。

一方、住宅市場は低調が続いた。商業不動産は若干弱い、数地区で改善の兆しがみられた。

企業のローン需要はわずかながら上向き、全般は信用の質も改善した。

価格上昇圧力は極めて限定的。賃金圧力は全般に緩いが、一部地区ではエネルギー、ハイテク分野で大幅に上昇した。